

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	涙道通過障害に対する外科的治療の治療成績の調査			
② 実施予定期間	研究実施許可日から 2031 年 3 月 31 日			
③ 対象患者	研究対象とする期間に当院眼科で涙道通過障害に対して涙管チューブ挿入術を施行した患者さん			
④ 対象期間	研究対象とする期間：2020 年 4 月 1 日 から 2029 年 3 月 31 日 追跡期間：2030 年 3 月 31 日まで			
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院			
⑥ 対象診療科	眼科			
⑦ 研究責任者	氏名	木村 和博	所属	山口大学大学院医学系研究科眼科学
⑧ 使用する情報等	研究対象者背景： 識別コード、手術時年齢、性別、原疾患、合併症、既往歴、現病歴 眼科検査： 視力、眼圧、細隙灯顕微鏡検査所見、涙管通水検査所見、眼科画像データ（前眼部写真、前眼部光干渉断層計(optical coherence tomography; OCT)）、抜去した涙管チューブの写真、涙道内視鏡検査所見 培養検査結果（実施した場合のみ） 治療法：術式名・手術年月日、涙管チューブの種類 術後経過：涙道通過障害の予後、再発の有無・再発率（細隙灯顕微鏡検査所見、涙管通水検査所見、眼科画像データ（前眼部写真、OCT）から判断）			
⑨ 研究の概要	涙道（涙の通り道）が狭くなったり詰まったりすると、涙がうまく流れず、涙があふれるなどの症状が起こります。このような状態に対しては、涙道内腔再建術（涙の通り道にチューブを入れて広げる手術）や、涙嚢鼻腔吻合術（新しい涙の通り道を作る手術）などの外科的治療が行われています。涙嚢鼻腔吻合術は、9割以上の方で再発なく経過する有効な治療法ですが、骨を削る必要があるなど、体への負担がやや大きい手術です。そのため、より体への負担が少ない治療として、涙道内腔再建術が広く行われるようになってきました。近年では、細いカメラ（涙道内視鏡）を用いることで、より安全に手術を行うことが可能となっており、当院でも導入されています。しかしながら、涙道内腔再建術では、手術後1年の時点で約7～8割の方に効果がみられるものの、治療成功率は涙嚢鼻腔吻合術と			

	比べるとまだ低いのが現状です。 本研究では、涙道内腔再建術を受けた患者さんを対象に、涙の通り道のどの部分が狭くなっているか、対象期間の診療録から患者さんの背景、検出された細菌の有無などと、治療の効果や再発との関係を調べます。これにより、どのような場合に治療がうまくいきやすいか、あるいは再発しやすいかを明らかにすることを目的としています。また、手術を行う前の時点で、治療がうまくいく可能性や再発のしやすさについて、ある程度見通しを立てられるようになることも期待されます。この研究の結果は、患者さん一人ひとりの状態に応じた、より適切で効果的な治療法の選択につながることを期待されます。			
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2026 年 6 月 18 日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	山口大学大学院医学系研究科眼科学の奨学寄附金			
⑯ 利益相反	ありません。涙管チューブに関連する企業からの寄付金の受け入れもありません。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 眼科 担当者：佐久間 彩乃			
	電話	0836-22-2278	FAX	0836-22-2334